

令和 4 年 5 月 17 日

令和 3 年度学校関係者評価報告（一部抜粋）

学校法人尽誠学園
香川看護専門学校

この報告書は、「香川看護専門学校の目標設定や達成に向けた取り組みを、学校運営の在り方や教育活動について客観的視点から評価し、改善の方向を提示することで看護師養成所としての教育水準の維持向上と学校運営の活性化を図る。」ことを目的に実施された学校関係者評価委員会による評価結果の報告である。

学校長 横山 重子
学校関係者評価委員 清水 裕子

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的

香川看護専門学校の教育目標とその達成に向けた取り組みについて、教育組織としての運営のあり方や教育活動の実施状況を客観的に評価し、改善の方向を提示し、看護師養成所としての教育水準の維持、向上および学校運営の活性化を図ることを目的とする。

2) 令和 3 年度学校関係者評価委員会委員（敬称略・順不同）

委員長	清水 裕子	大学教授
委員	松下 文夫	非常勤講師
委員	福屋 純子	実習施設
委員	三谷 尚子	実習施設
委員	志賀 紀之	前高等学校長
委員	高儀 雅俊	短期大学教授

3) 事務局

校長	横山 重子
副校長	大柳 薫
総務部長	増田 禎良
教務部長	谷川 香代
第 1 看護学科長	高橋 由恵
第 2 看護学科長	後藤 佳代子

4) 学校評価委員会

横山学校長の進行により、令和 4 年 5 月 17 日（火曜日）にオンラインにて開催された。

5) 学校評価の実施方法

- (1) 予め香川看護専門学校は評価項目にそって、「学習・評価過程、入学、卒業・進学」の自己点検を行った。
- (2) 各評価委員は、公開された学校評価資料を点検し、4月28日までに評価意見を香川看護専門学校に送付した。
- (3) 各評価委員の意見をもとに令和4年5月17日、オンライン会議で意見交換を実施した。
- (4) 意見交換の内容を事務局でとりまとめ、委員長に報告した。
- (5) 委員長が学校評価報告書案をまとめた。
- (6) 事務局より各委員に学校評価報告書案を送付し修正等の意見を集約した。
- (7) 委員長が報告書を令和4年6月30日までに学校に提出した。

2. 評価委員会外部評価者意見

自己評価報告書に基づき、以下のように意見が集約された。

○Ⅳ 教授・学習・評価

第一看護学科

1. 概括

提出された「自己評価報告書」は、「3：当てはまる、2：やや当てはまる、1：当てはまらない」の3段階で評価されており、ほとんどの項目が「3」評価であり、肯定的に捉えられていると概括される。

国家試験合格率等の卒業時の評価指標を念頭に、それに至る「教授・学習・評価」については、自己評価表の12の項目が「3」段階の自己評価となっている事実から、従来外部委員から指摘の事項が改善され、適切に運営されたものと判断される。

特に、コロナ禍における授業形態とそれに対応させた学生の修学状況は、対応の困難さがあったものと考えられる、評価結果から混乱を回避し、柔軟な対応がなされたものと判断される。

第2看護学科

1. 概括

「効果的な協力と指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている」の項目において、評価2となっている。学生の状況を把握するために担任制をとっているとのことだが、学生の状況が変化しており、個々の学生の状況を把握し、また学生との相性等の変化に対応するためには、主担任を決めた上で複数担任制を取ることが望ましいのではないかと考える。

○入学

1. 概括

高等学校卒業後の教育は、18歳人口の減少の影響はあるものの、就職より進学、進学の場合は、大学もしくは専門学校という二極化の傾向にあります。貴校にとっては、この点に入学者確保および存在意義があるといえます。特に専門学校は、大学と比べて、小規模で全教員が学生全体にかかわり、教員・学生の協働意識が高いようにみえており、そのことが目的や活動を共にする意識を醸成できると考える。

2. リクルート

第2看護科は、同じ学校法人の中に尽誠学園高校衛生看護科があり、この衛生看護科を軸に医師会等の准看護学校を訪問する等、生徒の個々のニーズに即してのリクルートが効果的ではないかと考える。また、ハローワークと連携する等、社会人への職業訓練の一環として、特に女性が経済的に自立せざるを得ない環境にある場合に、免許を取得することの利点を広報することも効果的と考える。

3. 学校案内について

学校案内に出ている学生の出身高校が書かれていないが、記載することにより学生募集に結びつけているとの意見もあることから、ご検討してもよいかと考える。

○卒業・就業・進学

1. 概括

適切な指導とその対応がなされているものと思われる。

2. 国家試験合格率および退学率

合格率で成果を評価することが多いと思うが、受験者数が50名以下の場合、個人の比率が大きいため、一桁台の%（パーセント）を評価する際には、抑制的な評価を行う必要があると考える。具体的には個別の問題の質を検討し、次の教育活動に生かすことが重要であると考え。%による評価でなく、そこに至った学生の問題を検討する必要があると考える。ただ、その結果の公開や活用については、慎重を期す必要がある。この評価は学生募集に繋がるともいえ、問題の質を専門家の参加や助言の下で検討していく体制が期待される。

○学校評価について所感

地域に大きな医療的貢献を果たしておられることに敬意を表します。

教育活動の評価に際し、この度、評価項目へのご提案を申し上げました。評価項目の妥当性については、外部専門家との検討を行うなどの妥当性を担保する必要があると考えられます。また、あらかじめ外部評価者と評価をどのように行うかの協議を行って評価資料の質を担保していただくことが期待されますので、今後の検討課題としていただければ幸いです。

引き続き、看護師養成教育への熱意と地域への貢献を期待申し上げます。

以上